

**製品名: IGFBP3 (リン酸化 Ser183) ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab04815**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	31kDa

**抗原情報**

遺伝子名	IGFBP3
別名	IGFBP3; IBP3; Insulin-like growth factor-binding protein 3; IBP-3; IGF-binding protein 3; IGFBP-3
遺伝子 ID	3486.0
SwissProt ID	P17936
免疫原	抗血清は、ヒト IGFBP-3 の Ser183 リン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 151-200

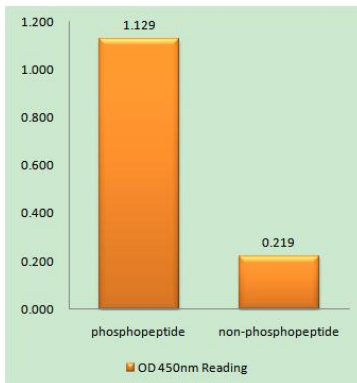
**背景**

この遺伝子はインスリン様成長因子結合タンパク質 (IGFBP) ファミリーのメンバーであり、IGFBP ドメインとサイログロブリン I 型ドメインを持つタンパク質をコードしています。このタンパク質は、インスリン様成長因子酸不安定サブユニット (IGFALS) およびインスリン様成長因子 (IGF) I または II のいずれかと三量体複合体を形成します。この複合体は血漿中を循環し、IGF の半減期を延長させ、細胞表面受容体との相互作用を変化させます。異なるアイソフォームをコードする代替転写スプライスバリエントが同定されています。 [RefSeq 提供、2008 年 7 月], 発達段階: IGFBP3 レベルは子宮外期間中に高く、思春期にピークとなる。 , ドメイン: サイログロブリン 1 型ドメインは HN との相互作用を媒介する。 , 機能: IGF 結合タンパク質は IGF の半減期を延長し、細胞培養における IGF の成長促進効果を阻害または刺激することが示されている。 IGF 結合タンパク質は、IGF とその細胞表面受容体との相互作用を変化させる。 , 誘導: IGFBP3 レベルは、IGF1、インスリン、および成長ホルモン、上皮成長因子、ホルボールエステルなどの他の成長刺激因子の存在下で上昇する。 , オンライン情報: シンガポールヒト変異・多型データベース, 類似性: 1 つの IGFBP N 末端ドメインを含む。 , 類似性: 1 つのサイログロブリン 1 型ドメインを含む。 , サブユニット: XLKD1 と相互作用する (類似性による)。 IGF1 よりも IGF2 に強く結合する。 IGF1 または IGF2 と 85kDa の糖タンパク質 (ALS) と約 140~150kDa の三元複合体を形成する。 HN と相互作用する。 , 組織特異性: ほとんどの組織で発現する。 ,

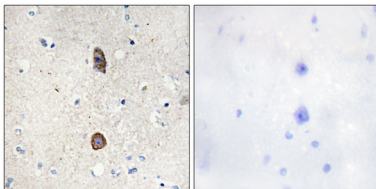
## 研究分野

p53;

## 画像データ



IGFBP-3 (リン酸化 Ser183) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



IGFBP-3 (リン酸化 Ser183) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。